

題 名	『直売所』と『レストラン』の一体化の取組		
実 施 主 体	加蘇地区むらづくり推進協議会 野尻直売所	取組開始年	平成 5 年

【取組の概要】

1. 経過

加蘇地域は、昭和50年代頃から農業後継者や担い手等の他産業従事や都市部への転出により、兼業化、高齢化、地域連帯感の希薄化等により地域の活力が衰退していきました。このような中、地域の活性化をしようと20名の地元住民が立ち上がり、平成2年「石裂山コンサート」を開催しました。

コンサート会場の一角に臨時売店を設置し、地元産のタケノコを販売したところ面白いように売れ、あっという間に完売してしまいました。そこで、直売所なら農業者も容易に参画でき、所得向上や都市農村交流につながると考え検討が始まりました。

平成6年2月専業農家15名で地元産の新鮮な野菜を提供しようと県単むらづくり事業を活用し野尻直売所を開設しました。

2. 直売所の運営

現在は、会員数52名（正会員13名、準会員39名）の他に、レジや商品管理者6名を採用し運営しています。

主な販売品は米やトマト、いちご、大根等の野菜類、しいたけ、竹の子等の特産物に加え、こんにゃく、漬物、麺類などの加工品も販売しています。



農産物直売所

特に、平成7年からは、地元産の米を「のじり米」と命名し、ブランド化・差別化に取り組んでいます。

来客数は、平日で約300人、休日で600人におよび、その数も年々増加しています。また、売上額も順調に推移しており開設4年目で1億円を超え、平成15年度には不況の影響にもかかわらず、1億5千8百万円を売り上げることができました。

3. お食事処「華」の運営



農村レストラン「華」全景

直売所で販売している地元農産物を消費者に“いかにおいしく食べてもらうか。”“どうしたらおいしい調理法を理解してもらえるか。”と考え、平成15年4月直売所の隣に県単むらづくり事業を導入し、お食事処「華」をオープンしました。

開店して1年程しか経過していませんが、地元産の米や野菜等をふんだんに使った四季折々の和定食（3コース）は安全・安心・健康メニューとしてお客様に喜ばれています。また、旬の果物や野菜（トマト）を使ったゼリーやシャーベットは食後のデザートとして女性の人気商品となっています。

【特徴的な取組】

1. 取組状況と成果

① 年4回のイベントは大盛況

直売所利用者と会員（農業者）の交流と日頃の感謝を込めて、年4回のイベントを開催しています。2月には創業祭、4月に感謝セール、10月に新米祭り、そして12月には年末謝恩セールを開催し、おにぎりや豚汁の無料配布、餅つき等多彩な企画を実施しています。

また、ポピーの摘み取り体験や直売所利用者との交流をととして、景観形成に努めています。

② 全会員がエコファーマーに認定される

直売所に並ぶ農産物は、出来るだけ減化学肥料で栽培した農産物を揃えるようにし、将来的には有機農産物として表示ができる農産物の提供を目指しています。また、現在は、減農薬、減化学肥料栽培に取り組んでいます。さらに、平成15年5月には、全会員52名がエコファーマーとしての認定を受け、安全・安心な農産物の供給体制が確立されました。

【今後の予定】

- 直売所では、隣接する農場の水田や畑を都市住民に体験農業の場として提供し、農業のあり方、「食と農」について考えて頂き楽しんでもらえる体験メニューを考案中です。
- レストラン「華」では食材の活用方法や調理方法を提供するなど、料理人と来客者とのコミュニケーションがとれる雰囲気作りを目指します。今後、ブルーベリー、イチジク、ラズベリーのアイスシャーベット作りの体験メニューを思案中です。

【連絡先】

名 称： 加蘇地区むらづくり推進協議会野尻直売所
有限会社 農業生産法人 華
所在地： 鹿沼市野尻285-4（加蘇地区むらづくり推進協議会野尻直売所）
鹿沼市野尻214-3（有限会社 農業生産法人 華）
電 話： 0289-63-4418（加蘇地区むらづくり推進協議会野尻直売所）
0289-63-1022（有限会社 農業生産法人 華）

題 名	農 産 物 直 売 所 「ア グ リ の 郷」		
実 施 主 体	農事組合法人アグリテック栃木	取組開始年	平成14年

【取組の概要】

1. 経過

- ① 農事組合法人アグリテック栃木の設立（平成7年12月）時は、土地利用型農業（水稻・ビール麦・大豆）経営をしていましたが、平成11年から栃木市観光協会とタイアップし、観光農園「アグリの郷」でいちご狩りを開園し、関東一円からの都市住民（年間来園者数約5,000人）の集客を目指しています。
- ② 同市国府地区の優れた地域資源を活かし、地域住民との合意形成に基づく都市と農村の交流を図るため、ふれあいの郷づくり事業により、平成14年10月「アグリの郷」農産物直売所を開設、さらに平成15年12月には、土地利用型農業で生産した米・大豆を使用して味噌加工を行い、直売所で販売するための農産物加工所を設置しました。

2. 効果

- ① これらの条件整備により、都市住民の農業体験や農産物の加工体験をとおして都市農村交流を図るとともに、地域で採れた農産物を地域で消費するいわゆる地産地消による農村地域の活性化が図られました。



「アグリの郷」全景



直売所の状況

【特徴的な取組】

1. 取組状況及び成果

① 体験学習を取り入れて

農産物直売所・農産物加工所の整備により、今までに行っていた観光農園「アグリの郷」のいちご狩りに訪れる都市住民顧客を農産物直売所にリンクさせて売上増を図り、さらに、体験農園と農産物加工所の体験学習（手作り味噌・いちごジャム・ロールケーキづくり等）を通して一層の「都市農村交流と食と農の理解促進」を目指しています。

- ・ 「アグリの郷」農産物直売所

会員数：48名 年間来客数：9,000人

品数：野菜、加工品、花等30～50種類

- ・ 観光農園・体験農園

いちご、じゃがいも、とうもろこし、大根等

【今後の予定】

- 体験農園で年間4～5作物の体験学習を通して、収穫の喜びを味わっていただくとともに、農産物直売所への集客増を図ります。
- 農産物加工所の手作り味噌を農産物直売所で販売。
- 農産物加工所を活用し、味噌・いちごジャム・ロールケーキ等の体験学習の参加者を募集し都市、農村交流に役立てたい。

【連絡先】

名 称 ： 農事組合法人 アグリテック栃木

所在地 ： 栃木県栃木市大塚町128-1

電 話 ： 0282-29-1146 F A X ： 0282-29-1147

題 名	「ふれあいの里しおや」の取組		
実 施 主 体	塩野谷農業協同組合	取組開始年	平成15年

【取組の概要】

1. 特徴

- ① 地域の農村女性が起業家としての意識を持って立ち上げた農村レストラン組合は、地元の食材にこだわり、そば生産農家と連携を図って安定的に供給されるそば粉を100%使用した「そば」を提供している。

また、地元産コシヒカリを使用した「おにぎり」は、注文を受けてから握るとともに、具は中に入れず手作りの惣菜を2～3種類添えて盛りつけるなど、他のお店では味わえない工夫を凝らして「塩谷の味」でもてなしています。

- ② 農産物直売所においては、安全で安心を心掛けて栽培したトマト・いちご・きゅうり・菊などの地元農産物はもちろん、町の特産品のヤーコンや裏山で採れた山菜などは所狭しと並べられ、販売されています。

特に、「菊の町しおや」をアピールした色とりどりの菊は年間を通して店頭に並び、菊の産地としての手軽な販売先となっています。

2. 効果

地域住民がいきいきと活躍できる都市住民との交流の場になっており、農産物の直売所や地元農産物の食材を使用した農村レストラン等を通じて農業生産者と消費者とのふれあいが生まれています。さらに地域全体で「農産物づくりの意識」が以前より強くなり、地域全体が活性化しています。また、町の南の玄関口としての地の利があり、町の情報発信基地になっています。

- ・平成16年2月末 直売所会員数120名



ふれあいの里しおや

【特徴的な取組】

1. 農村女性のアイデアで活性化

- ① 農村女性が主体的に活動に係り、生産者と消費者のかけはしとなり活発に活動しています。
- ② 農産物直売所と併設した、地元農産物を食材とした農村レストランが好評。

【今後の予定】

- 農村レストランにおいては、旬の食材を活用した新メニューの開発研究を行う予定。
- 農産物直売所においては、会員の拡大を図り年間を通した安定的な農産物の確保及び計画的品揃えを図ります。
- 感謝祭、収穫祭等のイベントを開催し消費者と生産者が交流する機会を計画しています。
- パンフレット等を作成し、来客者に町の情報を提供することにより、情報発信施設としての役割を担っていきたいと考えています。

【連絡先】

名 称 : J A しおのや塩谷地区交流施設（農産物直売所・農村レストラン）
所在地 : 塩谷町大字上平 7 0 5 2
電 話 : 農産物直売所（0287-46-0477） 農村レストラン・尚仁（0287-46-0478）

題 名	地元量販店とタイアップした地産地消の実践		
実 施 主 体	小山農業協同組合	取組開始年	平成14年

【取組の概要】

1. 「地産地消」コーナーの設置

- ① 小山地区は、県内有数の農業地帯であり、いちごやレタス、ちぢみほうれん草など24品目の野菜・果実がＪＡおやまを中心に生産され首都圏に供給しています。

ＪＡおやまでは、農業の持続的な発展を図っていくために、地域で生産された新鮮な農産物を地域で消費するという、いわゆる「地産地消」が重要な取組みであると考え、地元量販店等と検討を重ねた結果、ＪＲ小山駅前スーパーに平成14年７月から地場農産物コーナーを設置しました。

- ② 小山市内で生産されている農産物は殆どが販売されており、消費者の人気も高く、売上げも順調に推移しています。

平成15年４月からは県の「フレッシュ農産物供給事業」を活用し常設化しています。



地産地消コーナー



地産地消コーナー

【特徴的な取組】

- ① J R小山駅前スーパーに地場農産物コーナーを設置したことは、市中心部の消費者に視点を置くとともに通勤者も視野に入れています。
- ② 特に、消費者の地場農産物は新鮮かつ安全・安心であるというニーズに応えるため「エコファーマー」「リンク・ティー」等の認定を受けた農産物をできるだけ多く生産・出荷するようにつとめています。

また、旬の野菜販売については店頭で調理し、試食、販売するなどのP Rも行っています。

【今後の予定】

- 今後も安全・安心な農産物の供給をモットーに栽培履歴の記帳を実施し、地元の消費者にも愛されるコーナーの充実に取り組みたい。

【連絡先】

名 称 ： J Aおやま園芸課（北部集荷所）

所在地 ： 国分寺町小金井1007-1

電 話 ： 0285-40-0200

題 名	量販店におけるインショップの取組		
実 施 主 体	J A なす南青空市協議会	取組開始年	平成15年

【取組の概要】

1. 経過

J A なす南の産地直売組織「青空市協議会」は、地元スーパー「たいらや北関東烏山店」と連携し、新鮮な野菜を地元の消費者に提供し、地産地消で地域の活性化を進めています。

① 同協議会は、1987年、地元農家と消費者の相互理解を進めるために設立しました。当初は、青空市をJ Aの事務所前に張ったテントで営業し、地域農業を知ってもらう取組を地道に続けてきました。

② 平成15年3月から新たな取り組みが始まり、同J A管内で営業するスーパー（たいらや北関東烏山店）のリニューアルに合わせ、同店内の協議会の直売コーナーが開設されました。

③ 売場に目玉を作りたい店と、よりよい販売環境を求める生産者が「地産地消」を接点に協力し、南那須地方農産物マーケティング推進部会等で意見交換を行い、コーナーの内容や運営方法を協議し、開設にこぎつけました。

2. 結果

現在、「たいらや烏山店」のインショップのコーナーには出品野菜ごとに生産者36名の顔写真を掲示し、生産者の顔が分かる安心感ととれたての新鮮さが人気を呼び、連日完売となっています。



量販店の「直売コーナー」



「中山かぼちゃ」の販売

【特徴的な取組】

1. 取組の特徴

- ① コーナーは入り口近くに設置、色鮮やかな野菜が生産者の顔写真とともに並んでいます。
- ② 地域ブランド農産物（中山かぼちゃ）の契約取引販売（値決め）を7～9月に行っています。
- ③ 各生産者が、直売所に出荷するのと同様な荷姿、単価（販売価格）で出荷し、生産者の都合の良い時間に納入（1便及び2便）しています。
- ④ 協議会とJAが一体となって栽培講習会を開催し、周年供給の体制づくりを進めています。生産者は真剣そのもので、ハウスを建てるなど、増産に向けて取り組んでいます。
- ⑤ 作付けローテーションもうまく組み合わせていくこととし、品質面でも出荷者全員が揃うように努力しています。

【今後の予定】

- 年間を通して安定した出荷を見据えた作付けを推進していくとともに、新たな会員の掘り起こしを行い、地産地消を一層進めていく予定です。

【連絡先】

名 称 ： JAなす南青空市協議会

所在地 ： 那須郡烏山町初音7-5（JAなす南烏山営農経済センター内）

電 話 ： 0287-83-2111

題 名	インショップ「佐野まごころ野菜」の取組		
実 施 主 体	安佐農業協同組合	取組開始年	平成15年

【取組の概要】

1. 「地産地消」への取組

佐野市新都市地区に昨年4月オープンしたイオンの食料品売り場は活気に満ちています。その一角、「佐野まごころ野菜」のコーナーには地元で採れた旬の野菜が並びます。

安佐管内の生産者、約25人が登録しており、JAを通して新鮮で「安全・安心」な野菜を地域の消費者にお届けする「地産地消」を進めています。

2. 生産者の「顔が見える」安心野菜

生産者が、愛情たっぷりに育てた野菜は、朝どりした新鮮なものばかりです。

ラベルには生産者名が表示され、「顔が見える」商品として、安心をアピールしています。

イオンの担当者は「少しくらい形が曲がっていても、鮮度が良ければお客様は安心して買っていきます。お客様が産地の違う野菜を選ぶとき、地元産に手が伸びているようです」と話しています。



佐野まごころ野菜コーナー

【特徴的な取組】

1. 食と農業の距離を近づける取組の内容

- ① 無登録農薬問題や偽装表示問題により、食品の安全性に対する関心が高まっています。そんな中、食と農業の距離を近づけ、農産物への信頼を高めようと、生産者は「安心・安全・新鮮」にこだわりを持って、減農薬栽培に取り組んでいます。
- ② 「佐野まごころ野菜」コーナーでは、安佐地区の特性にあった旬の野菜を目玉に、地域農産物の消費拡大を図っています。
- ③ 生産者は、「売り場に試食などを用意して、調理方法やおいしい食べ方を知ってもらいたい」と積極的にPRを行なっています。
- ④ JAは多品目の野菜が提供できるように、生産から出荷までの計画を立てるなど積極的に取り組んでいます。

【今後の予定】

- 農業に関する情報提供（PR）及び、生産者と消費者の交流を通じて、この取組の活性化を図ります。
- 販路の多様化や産地間競争、輸入農産物の増加の中で、農産物の販路拡大として、市場外流通の拡大による農産物の有利販売に努めます。
- 農家の高齢者や女性などを対象にした少量多品目農産物の販路を確保するとともに、消費者ニーズに合った農産物の普及、生産拡大を図ります。
- 新鮮・安心・安価な農産物を消費者に安定供給します。

【連絡先】

名 称 ： 安佐農業協同組合 園芸課
所在地 ： 佐野市飯田町331
電 話 ： 0283-23-9992

題 名	特用林産物展示販売施設「 ^も り森林の駅」		
実 施 主 体	たかはら森林組合	取組開始年	平成11年

【取組の概要】

1. 経過

- ① 吊り橋の町として町おこしをしている塩原町において、平成11年に整備された「もみじ谷大吊橋」の観光集客を見込んだ物産施設は地域農林家の生産する特用林産物資源の需要拡大と普及PR及び所得の拡大を目的として設置した販売施設は大盛況です。又、隣接する地場産農林産物を使ったレストランも好評です。

観光スポットとなっているため、地域農林業の情報発信基地としての役割も果たしています。

- ② 「たかはら森林組合」が塩原町から業務の委託を受け管理運営を行っており、年々大幅な売上増加となっています。
- ③ 特にきのこや山菜等の特用林産物は開業以来約30%の販売量を占め、休日には午前中で売り切れるなど好評であり、常に新鮮な地場産農林産物の提供施設として今後も多いに期待されています。



「森林の駅」売り場の全景



きのこの販売

【特徴的な取組】

1. きのかや山菜は直売所の顔

- ① 出荷者（森林組合員）は、直接客の要望を聞きながら、商品の品揃えや、包装の仕方等創意工夫を行っています。
- ② きのかや山菜等、特産林産物が販売量の30%を占めています。

【今後の予定】

- 「観光吊り橋」の特色を活かした新たな品目や加工品の開発。
- 温泉街の食堂や旅館への食材供給による、特産品のPR。

【連絡先】

名 称 ： たかはら森林組合 もみじ谷大吊橋管理事務所
所在地 ： 塩原町関谷 1 4 2 5 － 6 0
電 話 ： 0 2 8 7 － 3 4 － 1 0 3 7